

大阪府泉南郡岬町立深日小学校

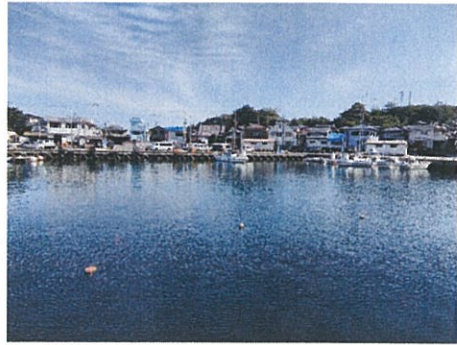



(様式 4-2 : 平成 30 年度 モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) にかかわる学校支援制度
実施結果報告書)

実施結果報告書

1. 学習名称 : みさきめぐり～地域の交通から出会い・学び合い・広げよう～					
2. テーマ : みさきめぐり～地域の交通から出会い・学び合い・広げよう～					
3. 実施教科 : 社会・総合的な学習の時間					
4. 関連単元 : わたしたちの住んでいるところ まちのしげんを生かす (教科書 日本文教出版)					
5. 実施単元数 : 18 (下記、学習の流れ参照)					
6. 学年	3年	7. クラス数	1	8. 生徒数	18名
9. 実施内容					
<p>深日小学校の位置する岬町は人口約 16,000 人の大阪府最南端の町である。人口の約 36% が 65 歳以上の高齢者と非常に多い。本校の校区は岬町役場、漁港など町の中心的な役割を抱える地区であるにもかかわらず本校の全校児童数も 86 人と減少の一途を辿っている。</p> <p>本研究は、こうした町の現状に対して、深日小学校の 3 年生が町内を走る南海電鉄多奈川線と岬町が運営するコミュニティーバスの現状と課題を調べ、利用者が減少する公共交通の活性化案を考え、地域の人にプレゼンテーションし、その思いや願いを受けて学校、地域、行政、企業、大学が連携して実現していくことを目的としている。本研究の特徴として以下の 3 点が挙げられる</p>					
① 小学校・地域・行政・企業・大学の連携					
深日小学校、岬町教育委員会、生涯学習課、総務部、しあわせ創造部、岬町まちづくりエディター、南海電鉄本社統括部、研究者 (関西大学、龍谷大学) が協働して授業、イベントの企画・推進・実施を行うことができた。					
② 交流や体験活動を通して、まちの良さを再発見					
モビリティ・マネジメント学習の根幹である公共交通の大切さや役割を実感するために、実際に乗り、その中で見つけた町内の美しい景色やおすすめの場所を写真に撮り、広めることで小さな町のよさや郷土愛、人とのつながりを深めることができた。					
③ よりよく解決する資質・能力の育成					
さまざまな人と出会いや学び合いを通して、学習が深まり、岬町の良さを生かした子どもたちなりの活性化案を考え、保護者、地域にプレゼンテーションし、「自分たちが考え出した案」を実現することができた。					

10. 学習のながれ（指導計画の概略と取り組みについて）

次	時間	学習内容	取り組みの記録
1	1	<p>公共交通について知る 9月14日</p> 	 <p>事前アンケートでは公共交通という言葉を知らない児童がたくさんいたが、その意味や役割を知ることができた。学習意欲の高まりがあった。（資料1参照）</p>
2	2	<p>地域のお年寄りを中心に聞き取り学習 宿題でおうちのひと聞き取りをする 9月19日</p> 	<p>コミュニティーバスと多奈川線の利用状況、昔の多奈川線の様子について、地域のお年寄りを中心に聞き取り調査をした。当日は60人もの方々が来てくださり、子どもたちのアンケートや質問に楽しそうに答えてくれていた。（資料2参照）</p> 
3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岬町の現状と課題について知る (岬町総務部企画地方創成課) ・ コミュニティーバスの現状と課題について知る (しあわせ創造部生活環境課) ・ 多奈川線の現状と課題について知る (南海電鉄本社統括部) <p>聞き取り学習 10月23日</p>	 <p>南海電鉄からは辻本さん（統括部）、副島さん（加太駅駅長）に来ていただき、多奈川駅のホームでお話を聞くことができた</p>

		 <p>岬町の公共交通の思いを語る波戸元理事</p>	 <p>児童が撮った写真の一例</p>
4	3	<p>コミュニティーバスと多奈川線に乗り、岬町めぐりをしてお薦めの1枚の写真を撮</p> 	
4	4	<p>聞き取り学習から分かったことをもとに、活性化案を考え、発表する準備 11月9日～11月22日</p> 	<p>活性化案づくりの条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ① お金をあまりかけない ② 学校で友達とできること <p>この条件をもとに子どもたちなりに企画案を考案。その結果、イベントで採用が決まった「落書き大作戦」という案を考えたグループが出てきた（資料3参照）</p>
5	1	<p>深日小ふれあい交流会において保護者や地域の人に学習成果を発表 11月30日</p> 	 <p>書画カメラやパワーポイントを使って学習でわかったことや写真を紹介した</p>

6	3	<p>「えっきーフェスティバル ～まちのみんなでここにこまつり～」と題して児童主体のイベントを開催 3月20日（資料4）</p> 	 <p>当日は無人駅の深日港駅に120人ちかくの人が集まった</p>
---	---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

本研究の企画書や資料等の作成ならびに地方の公共交通に関する助言と野間晴雄先生・松井幸一先生（関西大学）にはご指導をいただきました。また、本研究の成果を全国地理教育学会全国大会（専修大学 11月18日）で「地域の課題から社会的な見方・考え方を育成するプロジェクト学習に関する報告—地行政・企業とのかかわりを通したモビリティ・マネジメントの一例—」として報告。12月11日に関西大学大学院地理学専修の講義でも野間教授、松井准教授、学生さんと一緒に検討、協議させていただきました（資料5）。また、まちづくりや町おこしのご専門の舟橋和夫先生（龍谷大学名誉教授）には、9月12日にMM学習につながる校内研修をしていただきました（資料6）。



舟橋名誉教授の校内研修から企画の練り上げをもとに、岬町役場、教育委員会指導課および生涯学習課、南海電鉄等と計3回に渡って拡大会議を持ってきた。そのなかで出てくる課題、児童の学習効果等を野間教授、松井准教授が大学院でのゼミの時間を割いて、学生と一緒に考えてもらえる機会を得た。研究者から直接、課題に対してアドバイスをいただける貴重な機会となっただけでなく、教育現場の取り組みや学校と関係機関との連携の経緯などは、これから社会に出る大学生にとって非常に有意義な時間となったことは、小学校と大学にとってもWIN-WINの関係と成果を得ることができた。

11. まとめ

本研究によって、児童が公共交通の重要性を知りその在り方を主体的に考えていくというモビリティーマネジメント教育の意義を達成することができた。また、新学習指導要領の社会科、総合的な学習の時間で求められている自分たちの住む地域の特性とそこに住む人々の営み、郷土への歴史や愛着を感じ学び取りながら現状と課題を知り、答えのない課題に対しより良く解決していく資質や能力の育成を育むことができたといえる。こうした背景には、①校内で教科担任制を敷き、全校で教員の特性をいかした授業が実践されてきたこと、②小学校、教育委員会指導課、生涯学習課、岬町役場、南海電鉄、研究者（関西大学・龍谷大学）と緊密な連携が取れたこと、③公共交通の衰退の背景に、岬町が直面する課題である少子高齢社会という生活実感をともなったものがあり、「町を活性化させたい」という誰もが共有しやすいテーマが設定されたことで、それに共感した地域の人、トリコロールさん、町長といった人たちを巻き込むことが可能となったことにある。

児童の公共交通に対する意識の変容や学習効果（資料4参照）が非常に有意義であったことだけでなく、子どもたちが人のつながりによって学習を深め、人の心を動かしていくことで、自尊感情や他者への共感、感謝の気持ちをも醸成できたことでより学習効果を高める要因となったといえよう。

最後に、そうした児童の取り組みが多くの関係者の心を動かしたことにも触れておきたい。イベント企画会社でもない一小学校の教師と児童のプロモートによって、無人駅の平日の深日港駅に約120人の人々が集い、思いを共有したことは南海電鉄の辻本教秋氏（南海電鉄鉄道営業本部統括部）から「まさか、こんなに人が来てくれるとは思ってもみませんでした。」という率直な感想をいただいた。また、参加していただいたトリコロールさんは自身の公式ホームページ内の「みーやんのほっこりブログ」で、当日の感動をつづってくれている（<https://ameblo.jp/mi-yan-tricolore/>）。今後、この活動は岬町役場のホームページや広報誌「みさきだより」でも紹介される予定である。多奈川線、コミュニティバスを取り巻く環境は、依然として厳しく本研究の成果を持って解決されるものではない。しかしながら、児童らが学習を通して気づいた「人のつながり」の大切さが衰退する公共交通への意識や関心に一石を投じ、今後多くの実践例を生むことによって新たな人のつながりを生む契機となれば幸いである。

学力向上担当 岡田良平

みさきめぐり～地域の交通から出会い・学び合い・広げよう～

構成メンバー

深日小学校

岡田良平（学力向上担当）：研究主任・大学との調整・資料・報告書等作成
長根わかば（教頭）：地域・関係各所との調整
足立しのぶ（首席）：写真・図工作品の指導
岡田勝志（3年担任）児童の学習指導
谷内彩佳（4年担任）児童の学習指導

岬町役場・岬町教育委員会

澤 憲一（岬町教育委員会事務局次長）：学校・関係各所との調整
保田 智子（岬町教育委員会指導課参事）：学校・関係各所との調整
寺田 武司（総務部理事兼企画地方創生課長）：イベント開催に関する関係各所との調整
新保 太基（総務部企画地方創生課主幹）：深日小学校への出前授業、南海電鉄等への連絡調整
波戸元 雅一（しあわせ創造部理事）：深日小学校への出前授業、関係各所への連絡・調整
辻里 光則（しあわせ創造部生活環境課長）：学校・関係各所との調整
小川 正純（岬町教育委員会生涯学習課課長）：イベント企画・関係各所への調整
栗瀬 誠：イベント企画・関係各所への調整

岬町まちづくりエディター

佐々木 啓彰：児童への写真撮影の指導助言

川口 敬之：児童への写真撮影の指導助言

南海電鉄株式会社

辻本 教秋（鉄道営業本部統括部）：深日小への出前授業、社内・岬町役場への連絡・調整

上島 太一（鉄道営業本部運輸部業務課）：深日小への出前授業、社内・岬町役場への連絡調整

トリコロール（ミュージシャン）：イベントへの参加

大学関係

野間晴雄（関西大学文学部教授）：地方公共交通に関する指導・助言

松井幸一（関西大学文学部准教授）：モビリティ・マネジメント学習への指導・助言

舟橋和夫（龍谷大学名誉教授）：町おこし・まちづくりに関する指導・助言

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。

資料 1

みさきめぐり～地域の交通から出会い・学び合い・広げよう～

岬町立深日小学校 岡田勝志

モビリティ・マネジメント教育と関連性が強い内容

学年	内容および単元事例
第3学年 第4学年 (地域学習)	身近な地域の様子：身近な地域の交通の様子、バス路線と地域と地域のつながり

モビリティ・マネジメント力の育成について

三つの観点	具体的内容 1	具体的内容 2
【知識】 (望ましい交通社会を実現するために必要な知識)	交通社会に関する一般的な知識	<ul style="list-style-type: none"> ○生活と社会における交通や移動の意義や働き ○自動車利用の社会への影響(排気ガスによる地球環境問題への影響など) ○公共交通や自動車・徒歩の意義(地域環境や健康にやさしいこと、高齢者や生徒・学生にとって欠くことのできない移動の足であることなど) ○交通に係わる行政・交通機関の働き、交通に係わる法や仕組みなど
	私たちの身のまわりの交通に関する知識	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な地域にある交通の様子 ○公共交通の路線や料金・時刻・所要時間・乗降・運賃支払い方法 ○自身の毎日の移動の特徴やそれにともなう地球環境への影響など
【能力】 (交通社会に関する知識を適切に活用しながら、人と社会・環境の観点から適切に判断する能力)	自分と交通社会の関係性を調べたり、検討したりする能力	<ul style="list-style-type: none"> ○交通社会や自分と交通社会のかかわりについて、必要な資料を収集・選択し、適切に活用する能力 ○自分の交通移動の特徴を理解し、その社会への影響に洞察・検討する能力
	交通社会に関する知識を適切に活用し判断する能力	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や身近な人々の移動が人にも社会にも望ましい移動になるためには、どのような行動や取り組みが必要であるかを考え、判断する能力

<p>【態度】 (望ましい交通社会の実現に向けて自発的に行動しようとしたり、働きかけようとしたりする態度)</p>	<p>公的な社会的諸活動に主体的に関与し、貢献しようとする態度</p>	<p>○自分や身近な人々の移動が個人にも社会にも望ましい移動になるように自発的に行動しようとしたり、働きかけようとしたりする態度</p> <p>○望ましい交通システムの在り方について多角的に追究し考察しようとする態度</p> <p>○公共心、市民性（シティズンシップ）など</p>
-----------------------------------------------------------------------	-------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習指導案（社会・総合的な学習の時間）

岬町立深日小学校

岡田 勝志

■対象 第3学年1組児童

■活動名 みさきめぐり ～地域の交通から出会い・学び合い・広げよう～

■学習活動のねらい

- (1) 「交通」をテーマとして、利用者の減少が課題となっている公共交通を考え、自分たちの住む地域自治体への理解と関心、郷土愛を育む。
- (2) 公共交通の活性化を通して学校と地域が交流を深め、地域に還元することを目的としたプロジェクト学習として位置付ける。

■本時のねらい（第1次 1時）

- ・利用者の減少が課題となっている公共交通を考える。
 - ・自分たちの地域自治体の公共交通を知る。
 - ・自分たちの住む地域自治体の多奈川線やコミュニティバスについて関心をもつ。
- （経営状態、路線網、利用状況、料金、運営会社、多奈川線の始まり、地域住民の思い等）

■本時の流れ

学習の流れ	活動における留意点	備考
「公共交通」って何だろう。		
<p>○「交通」という言葉からイメージしよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校、道路、車、自転車、人が歩いている安全、ルール、信号等、キーワードをできる限り挙げ、イメージをふくらませる。 ・交通には自転車、自動車、電車、バスなどの手段があることを知る。 ・いつ、どこで、誰が、どのように利用しているか、生活体験を語る。 ・バスや電車をあまり使わず、車社会であること、また、渋滞が引き起こされている場所に焦点を絞っていく。 	<p>掲示物</p>
<p>○「交通渋滞」について考える。</p> <p>○「環境問題」について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞を経験した時の気持ちを想起させる。 ・地球温暖化ガス ・CO₂ (車5分 =エアコン暖房18時間=テレビ52時間) 	<p>掲示物</p>
<p>○公共交通と、自分たちの生活様式(ライフスタイル)の結び付きから、公共交通の問題点へとつなげていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車を使わない。 →病院や買い物、習い事などに行けない地域がある。 →岬めぐりの学習で行くのが大変だ。 ・バスや電車を使わない。 →お客さんが減る →地域のバスや鉄道の廃線 ・誰もが高齢になる(高齢化社会) →将来、安全に運転できなくなることもある。 	

	<p>→地域にとって深刻な問題</p> <p>☆「交通渋滞」「地球温暖化ガスの大量発生」 「地域のバスや鉄道の廃線」は地域に暮らす私たち一人ひとりのふるまいによって、もたらされている。</p> <p>☆移動手段として、自動車は自分たちの住む地域にとって必要不可欠である。</p>	
○ふりかえり	<p>☆「公共交通」と「自動車」の両面を活かしながらも、自分たちの生活とどのように結びつけていけばよいかという観点で、自分なりの考えをもつ。</p>	ワークシート

資料2 深日小モビリティ・マネジメント学習中間報告

平成30年10月10日

岬町立深日小学校

岡田良平・長根わかば

講評：野間春雄教授（関西大学）

企画目的

- ・モビリティ・マネジメント学習を通して、公共交通の重要性を知る。
- ・多奈川線とコミュニティーバスを事例に、プロジェクト学習を通して学校・地域・行政・企業が連携して実施し、児童のより主体的で対話的な深い学びにつなげる。
- ・児童の学びを通して、様々な人に岬町の良さを知ってもらい（再発見）、子どもたち発の町おこしにつなげていく。

I. 児童のアンケート結果

社会科・公共交通に関する関心（9月14日）

質問項目	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	思わない
社会科は好きですか	12	4	2	0
公共交通という言葉聞いたことはありますか	1	2	3	12
公共交通の意味を知っていますか	0	2	1	15
公共交通について学習したいと思いますか	12	5	1	0
※数字は人数				

I-1. 多奈川線・コミュニティーバスの利用に関するアンケート（児童）

質問項目	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	思わない
ふだん多奈川線に乗りますか	1	2	6	9
これから多奈川線に乗りたいですか	7	7	3	1
ふだんコミュニティーバスに乗りますか	0	2	4	12
これからコミュニティーバスに乗りたいですか	11	3	2	2
※数字は人数				

質問項目	週に3回以上	週に1回くらい	月に1回くらい	ほとんど乗らない
多奈川線にどのくらい乗りますか	0	1	2	15
コミュニティーバスにどのくらい乗りますか	1	1	1	15
※数字は人数				

I-2. 利用状況（児童）

どんな時に多奈川線に乗りますか（複数回答可）		どんな時にコミュニティーバスに乗りますか	
遠足	9	プール	3
ピアノ	1	みさきめぐり	3
おばあちゃん宅へ行く	1	病院	1
和歌山イオン	1	お出かけ	1
京都	1	はとこの家	1
散髪	1	乗らないからわからない	9
病院	1		
お母さんとお出かけ	1		
みさき公園	1		
いとこの家	1		
遠くに行くとき	1		
計	19		

II. 地域のお年寄りへのインタビューにいたる調査結果（9月19日 ふれあい喫茶）

調査対象者の構成

総数 60人 年齢を書してくれた方 20人（80歳以上 13人）（70～90歳、平均 82.7歳）

II-1. 多奈川線・コミュニティーバスの利用に関するアンケート（お年寄り）

質問項目	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	思わない
ふだん多奈川線に乗りますか	32	4	10	14
これから多奈川線に乗りたいですか	33	9	7	11
ふだんコミュニティーバスに乗りますか	26	16	10	10
これからコミュニティーバスに乗りたいですか	46	11	1	2

質問項目	週に3回以上	週に1回くらい	月に1回くらい	ほとんど乗らない
多奈川線にどのくらい乗りますか	5	12	15	28
コミュニティーバスにどのくらい乗りますか	10	18	15	17
※数字は人数				

II-2. 利用状況（お年寄り）

どんな時に多奈川線に乗りますか（複数回答可）		どんな時にコミュニティーバスに乗りますか（複数回答可）	
病院	14	病院	10
買い物	8	買い物	6
旅行	3	プール	5
お酒	2	淡輪	2
なんば	2	文化祭・運動会・展示会	4
習い事	1	役場	1
あそび	3	ウォーキング	1
コンサート	1	お酒	1
打ち合わせ	1		
子どもに会う	1		

III. 保護者へ児童によるインタビュー

9月21日～10月1日までの期間に実施した。児童は質問紙を持ち帰り、自分の家族や親せきなどに「直接聞き取り調査をすること」を約束して宿題として持ち帰らせた。18人の児童が全員1枚以上持ってくる事ができた。

調査対象者の構成

性別	人数	年齢層	人数
男性	10人	10代	1人
女性	16人	20代	0人
計	26人	30代	11人
		40代	9人
		50代	2人
		60代	3人
		計	26人

Ⅲ-1. 多奈川線・コミュニティーバスの利用に関するアンケート（保護者）

質問項目	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	思わない
ふだん多奈川線に乗りますか	2	3	5	16
これから多奈川線に乗りたいですか	7	8	3	8
ふだんコミュニティーバスに乗りますか	0	1	1	24
これからコミュニティーバスに乗りたいですか	3	3	5	15
※数字は人数				

質問項目	週に3回以上	週に1回くらい	月に1回くらい	ほとんど乗らない
多奈川線にどのくらい乗りますか	2	1	3	20
コミュニティーバスにどのくらい乗りますか	0	0	0	26
※数字は人数				

Ⅲ-2. 利用状況（保護者）

どんな時に多奈川線に乗りますか（複数回答可）		どんな時にコミュニティーバスに乗りますか（複数回答可）	
遠くに行く	5	子どもにバスの乗り方を教える時	1
仕事で利用	3	車が無い時	1
大阪市内に行く	2		
お酒を飲むとき	2		
イオン和歌山店	1		
遊びに行く	1		
車に乗れない時	1		

Ⅳ. 考察 1

学習前のアンケートでは、今回の学習の軸のひとつとなる社会科や学習意欲に対する興味関心は高い状況にあると言える。公共交通とのかかわりについては、多奈川線、コミュニティーバスともほぼ乗らないが、高齢者は多く利用している。特に高齢者のループバスの利用の多さが特徴的である。町内で用事を済ませる際の貴重な移動手段として位置付けられる。また、多奈川線やバスの利用目的として、児童は「遠足」が多い一方で、高齢者にとっては「病院」や「買い物」「プール」といった日常生活や健康に関する結果が多くを占めた。

児童のアンケート調査ではコミュニティーバスの利用が非常に多かった。そこでバスの写真を撮って

見せたところ、多くの児童が岬町が所有するバスと勘違いをしていた。結果、ループバスは利用されないだけでなく、「言葉と実物がつながっていない」こともわかった。

特に保護者世代は自家用車の利用が多いことから多奈川線、コミュニティバスともに利用されていないことがわかった。すなわち、多奈川線、コミュニティバスとも高齢者によって支えられていると言える。

考察2 アンケートおよび聞き取り調査の記述部分について

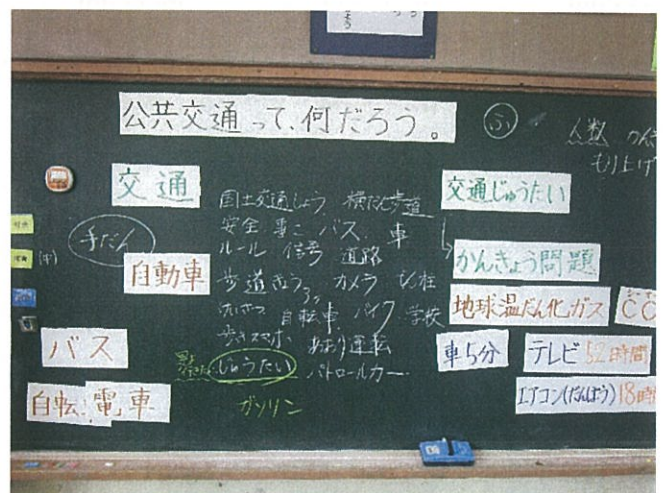
多奈川線、ループバス活性化案では、児童と高齢者で発想や生活目線の違いが顕著に見られた。児童の発想の実現の可能性については、今後の学習を通してより現実的なものに変化していくのではないだろうか。

また、ふれあい喫茶で行われた聞き取り調査では9歳の児童ら18人が参加者60人(平均年齢82.7歳)に対し、上手に受け答えをしながら聞き取り学習をすることができていたと言える。特に「高齢者との交流を通してどのようなことが心に残ったのか」という問いへの回答が聞き取り学習の充実ぶりを示していると言えよう。

児童に「直接、聞き取り調査をしてくる」ことを条件に宿題として同じ質問紙を持ち帰らせた。その結果、非常に活発な議論が親子間でされていたことがうかがえた。具体的な活性化案や利用者としての目線が見られた(町おこしのやり方、駅のホームの暗さなど)。単に個人的な要望というよりも、行政や鉄道会社の協力、イベントの企画などが子どもに語られていた。また、乗っていたころの様子も高齢者世代とは違った視点があった。

教師として、普段の宿題では漢字や計算、作文、音読などが定番である。土日で調べ学習を取り入れたりする。児童がわからないことをおうちの人に教えてもらおうとしても「わからんわ」「学校の先生に聞きなさい」ということで終わってしまうケースもある。今回の宿題を通して、親子の会話がふれあい喫茶同様に非常に盛んなものになったのではないかと考えられる。

公共交通における導入の授業



ふれあい喫茶での聞き取り調査



今後の予定

10月11日（曇天・雨天順延）（予備日18日）

「多奈川線・コミュニティーバスに乗ろう」（別紙企画書参照）

3月までのイベント開催に向けて

- ・12月中（年内）に児童発案の企画内容を教育委員会を通じて報告
- ・1月～2月中旬までに、児童のアイデアのプレゼンを実施
- ・3月上旬を目途に「(仮)多奈川線まつり」を実施（平日を希望）

1日駅員としてあいさつ運動・合唱・駅でのプレゼン・写真展（3・4年生作品合同）

※岬町教育委員会生涯学習課の小川さんや地域の写真家の方で昔の深日の写真がたくさんあるとのこと。この作品も展示できるようにしたい。

検討事項

- ・バスの車内に写真の展示は可能か
- ・広報につなげたい

★中間報告会での報告に対して、野間教授からいただいたアドバイス

①公共交通をとらえるにあたって、地域住民、行政、企業からここまで協力してもらって児童が学習・調査できるケースは非常に珍しいといえる。これまでの先行研究では、利用者のアンケートの集計を通してわかったことをまとめることで終えていた。この学習のポイントは地域の課題を把握したことから「提案」を児童がしていこうとしていることにある。この提案とは次期学習指導要領の総合的な学習の時間などにみられる「より良い解決策」につながっていく。

②地理的事象に関する学習の充実を求めたい。高校では地理総合が必修化されることとなった。地理学会としても今後、活発な議論がさらに必要になってくるが、議論の中心は高校の学習指導要領や実践が中心になってくるだろう。しかし、地理的事象の導入段階である小学校での実践が下支えにならない。小学校の先生方が指導要領で求められる社会科の内容と高校の地理総合の指導要領を対比し検討してみてもどうか。地理学の導入部分としてどう展開していくのか、見え方や考え方が変わってくるのではないか。

資料3 多奈川線とコミュニティーバスに乗ってみよう

岬町立深日小学校

学力向上担当 岡田良平

目的

3年生に実施したアンケートの結果、多くの児童が多奈川線とコミュニティーバスに乗ったことがない、もしくはほとんど乗らないと回答した。そこで、まずは多奈川線とコミュニティーバスに乗り、公共交通を体験することを目的とする。

学習活動

- ①公共交通に実際に乗り、経路や行き先まで自分で行き、なぜ必要なのかを考える。
- ②デジタルカメラとタブレットを各児1台持ち、車窓や行き先で写真撮影をする。撮影した写真から各児1枚選び、子どもたちなりの岬町のすばらしいスポットを紹介する。

日時 : 10月11日(木) 8:30~12:10

(予備日) 10月18日(木) 8:30~12:10

参加者 : 3年生(18名)

引率 : 岡田勝志・岡田良平・足立しのぶ

費用 : 交通モビリティ財団助成金より使用(児童の負担なし)

コミュニティーバス…行き先・距離に限らず乗車1回100円

多奈川線 …区間内は子ども乗車1回80円

行程

A班 みさっきーコース

9人 岡田良平先生

路線	乗車	時間	下車	時間	子ども運賃	大人運賃
バス(望海坂→小島)	深日小	8:43	小島	9:06	100円	100円
バス(小島→望海坂)	小島	9:30	望海坂	10:11	100円	100円
バス(望海坂→小島)	望海坂	10:20	みさき公園	10:38	100円	100円
多奈川線	みさき公園駅	11:09	多奈川駅	11:15	80円	150円
多奈川線	多奈川駅	11:27	深日町	11:30	80円	150円

A班 児童一人あたり 460円 ×9人 = 4140円

大人一人あたり 600円 ×1人 = 600円

計 4740円

A班が一番早く帰校します。写真選びをしておきましょう。

B班 しいたけコース

5人

足立しのぶ先生

路線	乗車	時間	下車	時間	子ども運賃	大人運賃
多奈川線	深日町	8:44	深日港	8:46	80円	150円
バス(西畑)	役場	8:57	佐瀬川	9:16	100円	100円
バス(西畑)	佐瀬川	9:16	保険センター	9:32	100円	100円
バス(東畑)	保険センター	9:48	横手	10:02	100円	100円
バス(東畑)	横手	10:02	役場	10:17	100円	100円
バス(孝子)	役場	10:22	上孝子	10:34	100円	100円
バス(東畑)	上孝子	10:34	役場	10:46	100円	100円
バス(望海坂→小島)	役場	10:47	小島	11:09	100円	100円
バス(小島→望海坂)	小島	11:37	深日小	12:00	100円	100円

B班 児童一人あたり 880円 ×5人 = 4400円

大人一人あたり 950円 ×1人 = 950円 計 5350円

C班 夕日コース

4人

岡田勝志先生

路線	乗車	時間	下車	時間	子ども運賃	大人運賃
バス(小島→望海坂)	深日小	8:45	みさき公園	8:50	100円	100円
バス(淡輪)	みさき公園	9:04	みさき公園	9:16	100円	100円
多奈川線	みさき公園	9:23	多奈川駅	9:29	80円	150円
バス(望海坂→小島)	多奈川駅	9:31	小島	9:51	100円	100円
	小島	9:57	役場	10:19	100円	100円
バス(西畑)	役場	11:02	オークワ	11:40	100円	100円

C班 児童一人あたり 580円 ×4人 = 2320円

大人一人あたり 650円 ×1人 = 650円 計 2970円

3コース合計金額 13,060円

注意点

トイレ休憩の場所として、役場や駅などを使わせてもらう。

10月23日(火)

場所：深日小学校3年生教室 9:00～

ゲスト：岬町役場 新保太基さん「まちづくりについて」
波戸元さん「コミュニティバスについて」

場所：多奈川駅 10:30～

南海電鉄 辻本さん(統轄部) 「南海電鉄・多奈川線について」
副島正敏さん(加太駅 駅長)

交通費

児童 18人 × 100円(バス) = 1800円

18人 × 80円(電車) = 1440円

計 3240円

大人 1人 100円(バス) + 150円(電車) = 250円



多奈川線で切符を買う児童



コミュニティバスの運転手さんと終点で撮影



バスから降りてまちめぐり



当たり前のようにいわしがいます(小島漁港)

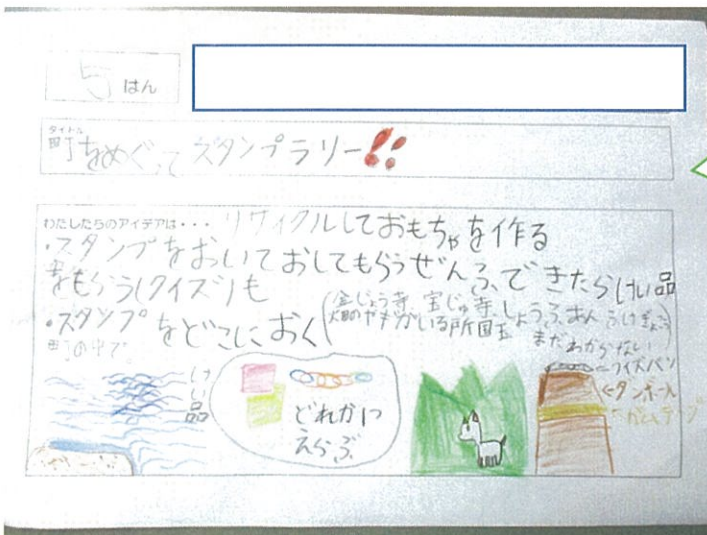
1. MM学習を始めるにあたって(9月10日)

質問1「多奈川線やコミュニティーバスはどうすればお客さんが増えると思いますか。」

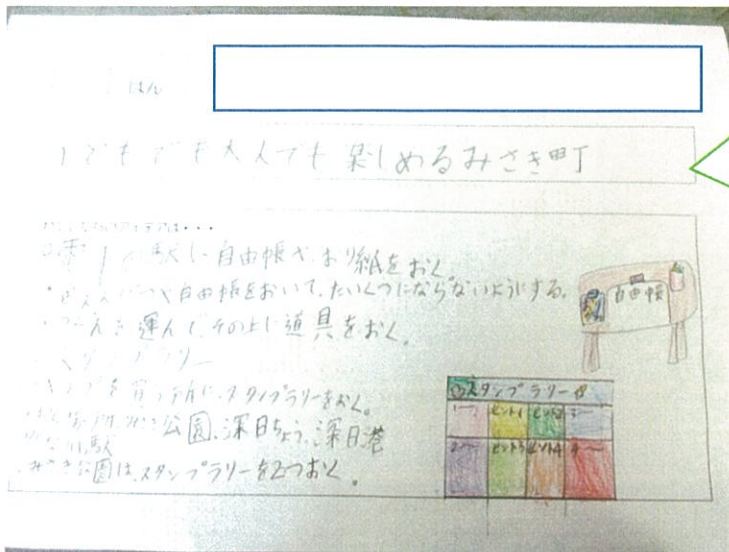
むりょうサービスをつくる。
24時間毎日休む休にする。
車やバス、ペットをいれれるようにする。
①たすに、いぬを一匹プレゼント (カメ) (ねこ) (うさぎ)

児童は自分がされてうれしいことや願いを書いているが、実現には非現実的な内容が多い。

2. MM学習を通して、様々な人と出会い、新しいことを知ったことで活性化案が出来上がる(11月22日)



事例1：スタンプラリー案
1学期に学習した「みさきめぐり」を活かして岬町内の施設等にスタンプを設置し、スタンプラリーをしてはどうか



事例2：自由帳・折り紙案
 駅構内での待ち時間を利用して、折り紙を作ったり、自由帳を置いておいて利用者を書いてもらう

わたしが一番心に入ったのは、馬具員とや役場の人がかかっていることで、みさきの線が今も残っていることがわかりました。

発表するための文をつくるのは大変だけどみんなのために何かできることを考えるのが楽しいでした。

みんなできてよかったです。それは意見を出合っ
 ちえをしぼったのが楽しかったです。

わたしの感想は、もしがするとわたしたちが考えたことを、もっと多くの人に伝えられるとみさき町の人、少してもうえで楽しい町になると思
 うからです。

ゆいけをいじめるように、子ども大人もが人はいます。
 みんなもごまうり、おちがします。たとえば私は、大人子どもで
 バランスのとれたしい町にします。

児童の意見に体験活動を通して、岬町の現状と課題を知り、それに対して主体的、対話的な学び合いができたことがわかる。特に、感想から見とれることとして、自分たちで活性化案を練り上げていく過程に

において公共性や公德心の発達が見られることも興味深い。

3. 企画の開催

「えっきーファスティバル ～町のみんなでにこにこまつり～」

1. 日時：平成31年3月20日（水）9：20～10：30

2. 参加児童：3年生18名、4年生6名 計24名
教員4名

3. 場所：深日港駅（イベント開催・掲示物掲示）
多奈川駅（掲示物の展示のみ）

4. 内容

落書き、合唱・演奏、作品掲示を実施します。

深日港駅

① 深日港駅でのコンクリート面への落書き



何色かのチョークを使い、コンクリート面に落書きをします。雨天時はできません。

安全面への配慮

当日は和歌山大学の学生ボランティアが10名以上参加します。児童の導線上に配置します。

雨天時の落書き対応

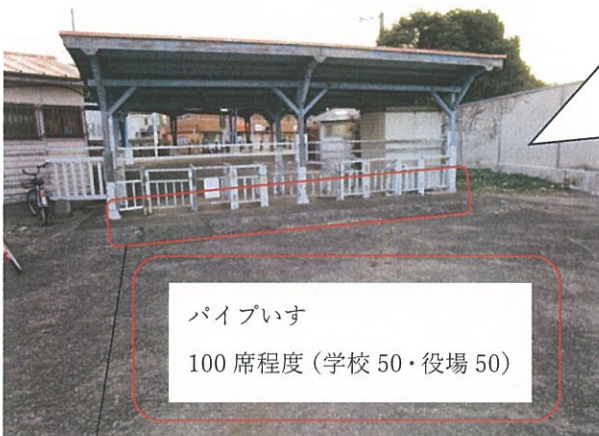
安全面を考慮して、ホームでのチョーク落書きはできないので、透明のビニル傘を購入しますので、傘のビニル部分に油性ペンで落書きします。晴天時にも時間があれば参加者に書いてもらおうと思っています。もし、南海電鉄さんが深日港駅や多奈川駅、岬町役場が役場の受付に置き傘として置いていただければ寄贈したいと思います。

②深日港駅壁面への落書きの掲示



模造紙（ロール紙）に落書きをして壁面に飾ります。現在、掲示されているポスター等の上に被せるようにすればポスター等の撤去の手間もないので、期間中ポスターが隠れてしまうことをご了承下さい。

③子どもの歌とトリコロールの演奏



パイプいす
100席程度(学校50・役場50)

深日港側の旧改札をバックにして広場に向けて合唱、演奏をします。現在、自転車が置かれていますが、企画課で1週間前から告知して当日は自転車を置かないようにしていただきます。

児童、演奏者



フェンス部分とパーテーションを役場や生涯学習課から借りますので図工や写真の作品を掲示します。パーテーションはホームの壁面側にも置きますので、ポスターが隠れてしまいます。ご了承ください。作品は額縁に入れます。

④写真や図工作品の掲示

多奈川駅



多奈川駅のフェンスに写真や図工作品を掲示します。フェンス部分とパーテーションを役場や生涯学習課から借りますので図工や写真の作品を掲示します。作品は額縁に入れます。

準備・片付けにあたって

作品の展示や飾り付け、パーテーションやパイプいす等を3月19日（火）午後から搬出入します。運搬は公用車を使います。22日の修了式終了後、作品の撤収と落書きのそうじに3・4年生が行きます。22日に清掃用に水道の水を使わせてください。19日（火）午後、20日午前中、22日午後の3日間、物品の搬出入等で深日港駅と多奈川駅に入れるように関係各所にご連絡いただけるようにご協力お願い致します。また、みさき公園駅、深日町駅、深日港駅、多奈川駅にイベント開催のポスターを掲出いたします。重ねてご協力よろしくよろしくお願い致します。音響機器の電源については、駅構内のトイレからドラムで電気を引き込みます。予備として発電機も用意する方向で調整しています。

ポスターの掲出について

- ① 多奈川駅 2枚
- ② 深日港駅 2枚
- ③ 岬町役場 2枚
- ④ オークワ（スーパーマーケット）2枚
- ⑤ 海星幼稚園 1枚
- ⑥ みさき公園駅 2枚
- ⑦ 深日保育所 1枚
- ⑧ 深日小学校・学童保育 2枚
- ⑨ 生涯学習課 1枚
- ⑩ まちづくり交流館 1枚

3月20日（水）時程表

時間	児童の動き・流れ	備考
7:00	深日小職員集合	教頭・良平・高野・奥・足立・勝志・谷内
7:00～ 8:30	準備 ●深日港駅担当（教頭・足立・勝志・谷内） 役場から公用車を借り、文化センターからパーテーションを搬入 作品掲示（3年写真計18枚） ●多奈川駅担当（良平・奥・高野） 文化センターよりパーテーションを搬入。 作品掲示（4年写真6枚・3年図工作品18枚 計24枚）	8:00には勝志帰校
8:15	児童登校 出欠確認等	
8:45 8:50	学校出発（3・4年生）勝志・谷内・河村 （1・2・5年）佐武・根来・丸毛・奥	
9:00	役場より深日地区全域に町内放送	保田指導主事が放送
9:20	開式（2列で並んでいる） はじめの言葉（Aさん）（Bさん） 町長挨拶（Cさん）	場所は深日港駅の旧改札
9:30	合唱「ちびっこカウボーイ」（Dさん） 「心パレット」（Eさん）	深日港駅の旧改札
9:40	落書き（Fさん） フリーパス配布説明（Gさん） 全校児童・参加者全員が参加できます 同時進行で3・4年生のみ記念写真撮影 列車到着時に乗降するお客さんへの謝辞	深日港駅の旧改札 ※和大生が駅構内で安全管理に協力してくれます。
10:10	合唱 「ぼくたち深日の子どもやで」 （Hさん）（Iさん） 2列で移動 歌い終わったらはける 伴奏 トリコロール 演奏 トリコロール	チョーク（旧改札とホームの間）、模造紙（ホーム壁面） 参加者全員参加
10:35	閉会（講評：辻元教秋（南海電鉄）） 終わりの言葉（Jさん）（Kさん） 帰校	深日港駅の旧改札

※当日の駐車場は新日本工機さんの駐車場を借ります。和大生が交通整理。

持ち物

水筒・クレヨン・クレパス

深日小	役場	生涯学習課
パイプ椅子 50 脚 ロール紙・模造紙 マジック類 飾り（ウェルカムボード、輪飾り、ポスター、注意書きなど） チョーク（箱ごと） クレヨン・クレパス デッキブラシ・バケツ 児童用机 2 台（多奈川駅・深日港駅でチケットを配布・回収） かご 2 つ 画鋸 フリーパス（計 88 枚）	丸椅子 50 脚 作品掲示用パーテーション（足りない分） 公用車（19 日午後、20 日 1 日、22 日 1 日） 深日港駅自転車置き場のたて看板	作品掲示用パーテーション 10 枚（多奈川駅 5 枚・深日港駅 5 枚） 音響設備

田代町長あいさつ文

子どもたちが保護者、地域の方々、役場の職員、南海電鉄の方々、まちづくりエディターなど様々な人たちとの交流を通して岬町の魅力と課題を考え、共有し、解決策を考えてくれました。この学習は深日小学校の 3・4 年生が 9 月から始め、このイベントを最終目標にして進めてきました。ここに至るまでに、利用者の方々、役場のコミュニティーバスを運行するしあわせ創造部、南海電鉄の社員さん、岬町のまちづくりの担当者などたくさんの人から岬町や多奈川線の課題を教えてもらい、自分たちでまとめて発表してきたそうです。どのアイデアも子どもらしさに溢れ、大人では思いつかないような発想もありました。今回の事業に対し、助成をいただきました交通エコロジー・モビリティ財団、ならびにこの企画にご賛同いただいた南海電鉄のみなさんにはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



当日の様子



当日は天気にも恵まれ、平日にもかかわらず、地域の方を中心に約 120 人もの人で賑わいました。無人駅の深日港駅にこれほどのひとが集まることはありません。多くの人の協力が子どもたちの学びを深め、まちの活性化の一端となることができました。

4. MM学習を通じた児童の変容 (3月20日)

事前学習で児童に対して行ったアンケートを再度実施して変化を考察する。質問1「多奈川線やコミュニティバスはどうすればお客さんが増えると思いますか。」

もっとイベントをふやしていいかいいと思いましたが、
というし、お客さんが楽しめるとなると人が入るから、イベントも
お客さんがふえていくと思うからです。

〇〇がたのしい〇〇がいいところをわかってもらえる。
リレー
ママにリレーバスかとしてたのしいところに行けるよといふら。
こどもたちもママもたのしいから

みんながえきになるものを、元気になるものを、みんなのために、リレーバスに乗る人が
多く、ふえて、バスがにぎやかになったらいいと思ふ

事前学習の段階では、個人の願望や非現実的な内容が散見されたが、学習を通して現実的かつ、自分たちの生活の範囲内でできることに変化している。また、人とのつながりによって解決しようとする記述がみられる。

学習のまとめとして、「多奈川線とコミュニティバスの学習をしてどのようなことが大切だとわかりましたか」という問いに対して以下のように回答している。

人とのふれあい 人と人がよくないとおもしろいじゃあ、
そんな人があまるとか、
人とふれあっていたらあの子たちが、
おもしろいから

さいしょは、多奈川線やコミュニティバスの事をあまり知らなかったけど、
多奈川線やコミュニティバスの勉強をして、写真をとった時、
おもしろいよかったです。なので、知ったり学んだりできると
おもしろいよかったです。

つながりを通して知識の往還と他紙の協力に対する感謝や共感が児童の文章から表現されている。特に、「自分たちでもできるんだ」という達成感に裏打ちされた自信を感じられる表現が見られる。

- ・人がへってしまわないように、くふうして、考えることが大切だと思いました。
- ・人がへると、バスや電車がなくなってしまうからです。

また、「えっキーフェスティバル」の感想については以下のように回答している。

みんながやるといいイベントができたりきょうかばイベントができるのでそれを大人になってもらおうして仕事をしたいです。

いろいろな人が来てくれてうれしかったです。一つ自分たちで作ったのではくかかあってよかったです。

思。下より、人がい。ほいいて、よりまんちゅうしたけど、みんなが、きょうりくしたから、こまていけたと思いました。

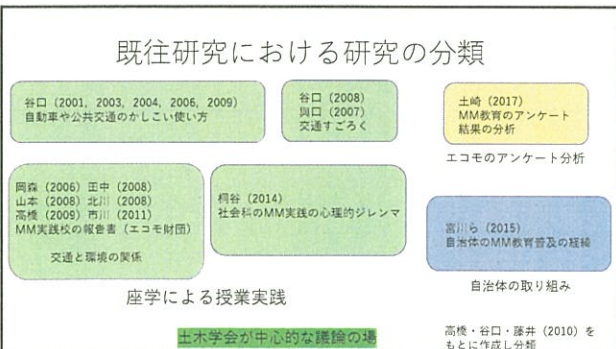
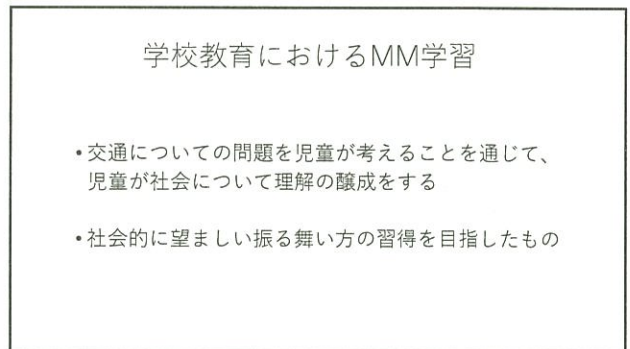
最後に「岬町をどのような町にしたいですか。そのためにあなたはこれからどうしていきたいですか」というという問いに以下の回答があった。

イベントやたのしいことがいっぱいある町
 こ木からもじ分からこ木やたらういんちゅうとじ分からいけんをいう

・人がへってまたすけ合えて、なんで"も出来る山甲町にしたいです。なので、人の言古を聞いたたりしてみんなが"考えてこま、ている人が少なくなるようにしたいです。

人口減少という課題を捉え、課題解決に向けて前向きに考えて話し合うことが大切であることがわかってる。

いくつかの児童の記述を事例として紹介するが、3つの点が共通しているといえる。1つめは、人とのつながりを大切にしようとしていることである。学習を通して多くの関係者や地域の方が温かく児童の問いかけや思いに応えてくれた成果であると考えられる。2つめは、岬町が少子高齢社会であることを理解した上での公共交通の重要性がみられることである。3つめは、プロジェクト学習による課題解決学習によって達成感をしっかりと感じ、解決が困難な課題に対してどのように取り組んでいけばいいのかを子どもなりに表現していることである。



社会科（新学習指導要領）改定の要点

- 「社会的な見方・考え方」を働かせ、総合的・横断的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを明確化
- 社会的な見方・考え方（小・中学校で必要）を働かせ、総合的・横断的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを明確化
- 社会的な見方・考え方（小・中学校で必要）を働かせ、総合的・横断的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを明確化
- 学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントの推進も必要

総合的な学習の時間 改定の要点

- 「探求的な見方・考え方」を働かせ、総合的・横断的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを明確化

地域の実態を考慮して中学年を対象とする

- 社会科・総合的な学習の入り口
- 地理的事象の学習の入り口
- 高学年よりも素直に見たもの、聞いたもの、感じたものを表現

高学年になっていくまでに、郷土愛や「地域」への見方・考え方を広げる

導入段階で、地域を多面的にみることができるようにしておきたい

研究目標

- 公共交通を盛り上げることで地域の活性化をする。
- 主体的に対話的な深い学びには、経験・体験を通したもの
- 社会的な見方・考え方・資質・能力の育成
- 課題解決能力の育成

教師の特性を生かした交換授業
複数指導体制

効果的な
カリキュラムマネジメント

地域の課題
少子高齢社会の町町・深日地区
(H29年度人口の約36%が高齢者)

利用者の減少に歯止めのかからない
南海電鉄多奈川線
コミュニティーバス

プロジェクト学習
活性化案を提案し、実現する

全校での交換授業

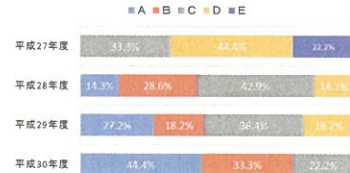
4年1組					5年1組						
4年	月	火	水	木	金	5年	月	火	水	木	金
1	国	総外	理	算	国	1	国	理	国	国	国
2	体	算	算	体	総	2	算	理	道	国	理
3	音	国	道	国	理	3	算	外	算	国	体
4	算	外	国	社	国	4	算	国	総	算	算
5	理	社	外	算	算	5	算	算	外	算	算
6	社	国	算	算	特	6	総外	体	算	算	特

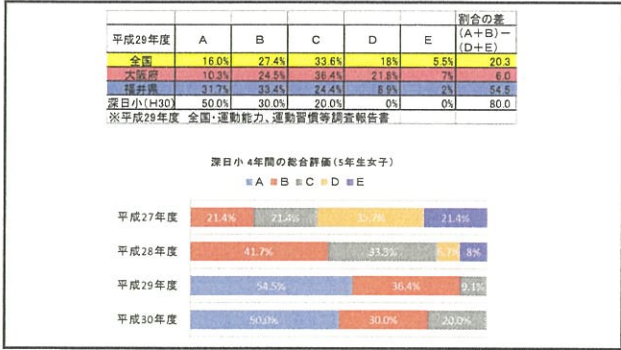
担任・・・T2として参観、裏番組の授業

年度	A	B	C	D	E	割合の差 (A+B)-(D+E)
平成29年度	12.5%	25.5%	33.2%	20%	8.8%	9.1
全国	8.9%	23.1%	34.6%	22.8%	10.6%	-1.4
大阪府	31.7%	33.4%	24.4%	8.9%	2%	30.9
深日小(H30)	44.4%	33.3%	22.2%	0%	0%	77.7

※平成29年度 全国・運動能力、運動習慣等調査報告書

深日小4年間の総合評価(5年生男子)





MM授業前 児童の公共交通活性化案

児童1
 1. 深日小からバスを運行する
 2. 深日小からバスを運行する

児童2
 1. 深日小からバスを運行する
 2. 深日小からバスを運行する

児童3
 1. 深日小からバスを運行する
 2. 深日小からバスを運行する



児童らの調査結果

質問項目	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	思わない
社会科は好きですか	12	4	2	0
公共交通という言葉を聞いたことはありますか	1	2	3	12
公共交通の意味を知っていますか	0	2	1	15
公共交通について学習したいと思いますか	12	5	1	0

※数字は人数

ふだん多摩川線に乗りますか	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	思わない
3年生	1	2	6	9
お年寄り	32	4	10	14
おうちの人	2	3	5	16

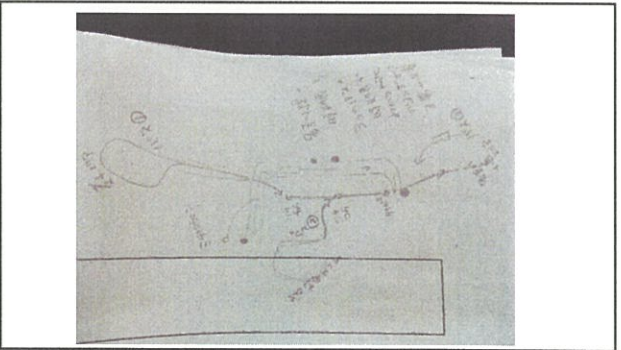
ふだんコミュニティバスに乗りますか	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	思わない
3年生	0	2	4	12
お年寄り	26	16	10	10
おうちの人	0	1	1	24

1. 深日小からバスを運行する
 2. 深日小からバスを運行する
 3. 深日小からバスを運行する
 4. 深日小からバスを運行する

5. 深日小からバスを運行する
 6. 深日小からバスを運行する
 7. 深日小からバスを運行する
 8. 深日小からバスを運行する

9. 深日小からバスを運行する
 10. 深日小からバスを運行する
 11. 深日小からバスを運行する
 12. 深日小からバスを運行する



どんな時に多奈川線に乗りますか (複数回答可)		どんな時にコミュニティバスに乗りますか (複数回答可)	
病院	14	病院	10
買い物	8	買い物	6
旅行	3	プール	5
お祭	2	決輪	2
なんば	2	文化祭・運動会・展示会	4
習い事	1	夜場	1
あそび	3	ウォーキング	1
コンサート	1	お祭	1
打ち合わせ	1		
子どもに会う	1		

子どもたちも親世代も多奈川線にもコミュニティバスにも乗っていない

岬町役場・南海電鉄から話を聞く

乗ってみよう

岬町といえば
自然・夕日
おっちゃん・おばちゃん

写真を撮ろう

いい写真が撮れたから写真展を駅しよう

大人では思いつかない発想にかけよう

ルール

- ・学校でできること
- ・手作りや工夫でできること
- ・あまりお金をかけない
- ・だれもが優しい気持ちになれること

岬町総務部 (まちおこし)
岬町しあわせ創造部 (バス)
岬町教育委員会 (教育行政)
南海電鉄統括部 (電車)

子どもの夢を
かなえることはできないか

岬町スツンギャラリー!!

みんなのアイデアを... リサイクルしておもちゃを作る
コップを置いておいてもうせんふでできた(作品)
ももろクイズも (まじろ音に等しいようかんを)
スツンとどまにおく (せんりがけしつ所画 集めよう)

どれが
えん

岬町スツンギャラリー!!

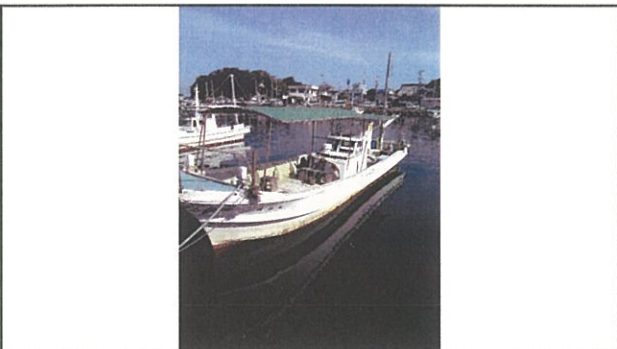
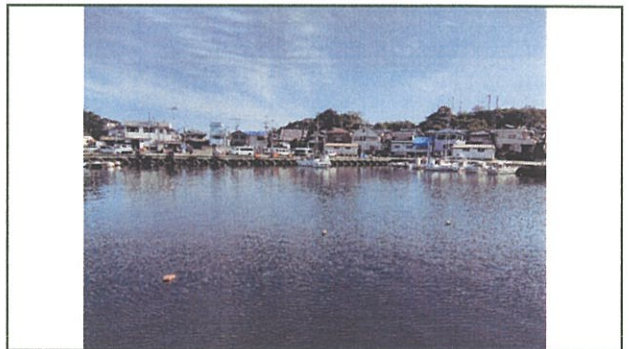
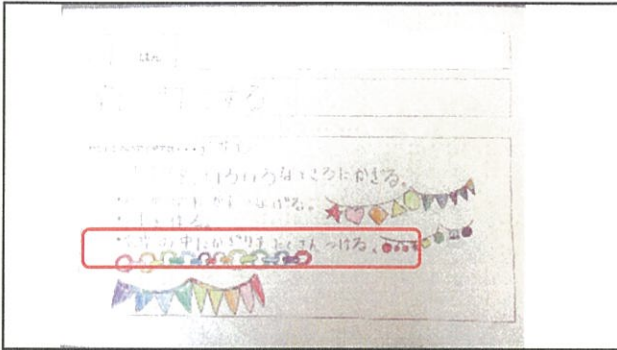
子どもたちが夢を思い描くみぎ道

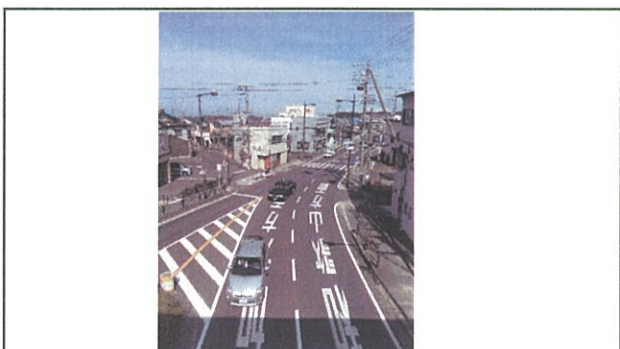
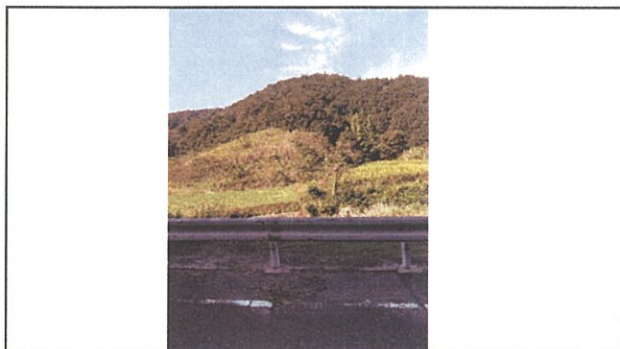
岬町スツンギャラリー!!
みんなのアイデアを... リサイクルしておもちゃを作る
コップを置いておいてもうせんふでできた(作品)
ももろクイズも (まじろ音に等しいようかんを)
スツンとどまにおく (せんりがけしつ所画 集めよう)

岬町スツンギャラリー!!

みんなが元気でいられる町

岬町スツンギャラリー!!
みんなのアイデアを... リサイクルしておもちゃを作る
コップを置いておいてもうせんふでできた(作品)
ももろクイズも (まじろ音に等しいようかんを)
スツンとどまにおく (せんりがけしつ所画 集めよう)





MMを通したまちおこし

- 3月上旬
- 深日港・多奈川駅にてイベントを開催
- 岬町・南海HPにて告知
- 写真展・歌「ぼくたち深日のこどもやで」・駅員体験
- 「みんなで落書き」「みんなで自由帳」(実現に向けて協議中)
- バスの車内に写真と詩を掲示

社会科（新学習指導要領）における資質・能力の育成

- 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする
- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う
- 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う

総合的な学習の時間（新学習指導要領）における資質・能力の育成

- 既存の資質・能力を用いて課題の解決に向かい、課題の解決を通して、より高度な資質・能力が育成されていく
- よりよく解決するとは、解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題などについても、自らの知識や技能等を総合的に働かせて、自らの具体的な課題を粘り強く対処し解決しようとする態度を養うことである。身近な社会や人々、自然に直接関わる学習の中で、課題を解決する力を育てていくことが必要になる
- 試行錯誤しながらも新しい未知の課題に対応することが求められる時代において欠かすことのできない資質・能力

児童A
 いろいろ考えたけど、この町は自然と環境のいいところ。だから、いろいろなことをしたいです。

児童B
 会場のための準備は大変だけどみんなの力を合わせてやることは楽しいです。

児童C
 みんなでできてよかったです。これは意見を合せてやる、しぼるのが楽しかったです。

児童D
 ああ、考えなおすの、じゃあ何か、何と3つ
 の考えが出ればよくアイデアが出るかな、たす。

児童E
 いろいろ考えたけど、アイデアはたくさんあるけど、みんなの力を合わせてやるのは楽しいです。

児童F
 あなたの感想は、さしつかえなくわたしたちが考えたことを、多くの人がつたえれると、みさき町の人は、例え、楽しい町になると思いがちです。

児童G
 モビリティの「がくしゅう」をこれからもつづけて
 もっといい町にまた人が多いまちにしたいです。


学習が深まるにつれて、社会的な見方・考え方が深まり、
 社会科と総合的な学習の時間で求められる資質・能力の育成に
 迫っていくことができる

最大の要因


- ①自分たちで実体験を通して、自分たちの住むまちの課題と良さを再確認
- ②地域の課題を課題解決学習に据えた
- ③保護者・地域・行政・企業にとっても共通課題として共有化

今後の課題と方向性

- ・ イベントを成功させる
- ・ 継続性 ⇒ 資金
- ・ 行政・企業が共有できる「大きな課題」にあえて取り組む
- ・ 行政や企業は学校（子ども）を巻き込みたい



地方の少子高齢社会
 学校活性化 ⇒ 地域活性化



本研究は公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
 平成30年度「モビリティ・マネジメント教育（交通関係学習）」にかかわる学校支援制度（支援番号18-7番「みさきめぐり」地域の交通から出
 会い・学び合い・広げよう」の取組金の一部を利用させていただきました。